

令和元年10月29日（火）

令和元年度第2回3市ごみ減量推進市民会議

次 第

開 会

1. 委員紹介 令和元年10月1日付人事異動に伴う委員の変更について

2. あいさつ 宮脇委員長

3. 議 事

(1) 各グループにおける中間報告・意見交換

①減量グループ

②情報グループ

(2) その他

閉 会

3市のごみ減量・資源化の取り組みについての提案(案)

～焼却ごみ削減に向けて～

目 次

1	3市のごみの内容	1
2	3市のごみ量の変化	2
3	3市の焼却ごみ削減目標	4
4	ごみ減量・資源化の取り組み	5

令和元年 10 月 29 日

3市ごみ減量推進市民会議 減量グループ

1 3市のごみの内容

焼却ごみ削減に向けて、さらなるごみ減量・資源化に取り組むに当たっては、ごみ種（生ごみ、プラスチックごみ、紙ごみ、その他のごみ）ごとに焼却ごみの削減目標と削減策を検討するため、まず3市の直近と10年前のごみ種別の可燃ごみ・不燃ごみ排出量と資源化量を把握しました。

可燃ごみ・不燃ごみのごみ種別排出量は、可燃ごみ・不燃ごみの湿ベースの組成を基に算出し（表1）、ごみ種別資源化量としては「資源ごみからの資源化量」を用いました（表2）。

表1 3市の可燃ごみ・不燃ごみの組成とごみ種別排出量（湿ベース）

		合計 t	生ごみ		プラスチックごみ		紙ごみ		その他		
			組成%	排出量 t	組成%	排出量 t	組成%	排出量 t	組成%	排出量 t	
2018年度	可燃ごみ	日野市	26,442	19.8	5,236	26.9	7,113	36.6	9,757	16.4	4,336
		国分寺市	16,735	41.7	6,978	9.6	1,607	40.6	6,794	8.1	1,356
		小金井市	12,021	22.8	2,741	11.6	1,394	50.7	6,095	14.9	1,791
	不燃ごみ	日野市	5,249	—	—	30.7	1,611	—	—	69.3	3,638
		国分寺市	1,596	—	—	52.3	835	—	—	47.7	761
		小金井市	3,700	—	—	60.9	2,254	—	—	39.1	1,446
	計	65,743		14,955		14,814		22,646		13,328	
2008年度	可燃ごみ	日野市	28,927	35.2	10,182	14.4	4,165	36.6	10,616	13.7	3,963
		国分寺市	21,648	35.4	7,663	16.7	3,615	40.6	8,053	10.7	2,316
		小金井市	16,059	32.3	5,187	16.4	2,634	50.7	6,375	11.6	1,863
	不燃ごみ	日野市	5,982	—	—	68.3	4,086	—	—	31.7	1,896
		国分寺市	2,528	—	—	54.1	1,368	—	—	45.9	1,160
		小金井市	3,506	—	—	61.9	2,169	—	—	38.1	1,337
	計	78,650		23,032		18,037		25,044		12,535	

- * 1 原データは、東京市町村自治調査会『多摩地域ごみ実態調査』。ただし、小金井市の不燃ごみの組成は、市報のごみ減量・リサイクル特集のデータによる。（以下同様）
- * 2 可燃ごみ・不燃ごみは収集ごみ・持込ごみ込み。プラスチックごみには「その他不燃物」、紙ごみには「その他可燃物」を含めた。（以下同様）
- * 3 湿ベースの組成データがない場合は、全国都市清掃会議の各ごみ種の含水率を用いて、乾ベースのデータを湿ベースに換算（以下同様）

表2 3市のごみ種別資源化量

	2018年度				2008年度			
	プラ類 t	紙類 t	その他 t	合計 t	プラ類 t	紙類 t	その他 t	合計 t
日野市	941	5,279	2,512	8,732	578	8,141	2,667	11,386
国分寺市	2,330	3,879	2,018	8,227	1,762	4,586	1,916	8,264
小金井市	1,923	4,621	1,989	8,533	395	4,944	2,197	7,536
計	5,194	13,779	6,619	25,492	2,735	17,671	6,780	27,186

- * 1 資源化量は「資源ごみからの資源化量」のみ。「収集後資源化量」（焼却灰のエコセメント化量や不燃ごみ等からの資源化量）と集団回収量は含めない。
- * 2 プラスチック類＝「ペットボトル」＋「発泡トレイ」＋「その他」 紙類＝「紙類」＋「紙パック」

2 3市のごみ量の変化

焼却ごみ削減の目標設定の参考とするため、大部分が焼却に回っている可燃ごみ・不燃ごみの排出量と資源化された量の過去10年間の変化をごみ種別に見ると、以下のような傾向が見られます。

生ごみは、中食化・外食化の影響か、3市全体として排出量が大幅に減少しています。

プラスチックごみは、容器包装プラ全量資源化をまだ実施していない日野市以外の2市では、資源化が進み、ごみとしての排出量が減少しています。

紙ごみは、紙の消費や新聞購読の減少を反映し、3市全体でごみとしての排出量も資源化量も減少しています。また、3市の事業系持込ごみ処理手数料の値上げも紙ごみ減量の一因となっています。

その他のごみは、3市全体でごみとしての排出量がやや増え、資源化量はほぼ横ばいです。

なお、国分寺市は、2013年6月から家庭ごみ有料化を実施し、各ごみ種ともごみとしての排出量を大幅に削減しています。

表3 3市の過去10年間のごみ量の変化

() 内は2008年度比 (t)

		2008年度			2018年度		
		可燃・不燃 排出量 t	資源化量 t	計 t	可燃・不燃 排出量 t	資源化量 t	計 t
生ごみ	日野市	10,182	—	10,182	5,236	—	5,236
	国分寺市	7,663	—	7,663	6,978	—	6,978
	小金井市	5,187	—	5,187	2,741	—	2,741
	計	23,032	—	23,032	14,955 (-8,077)	—	14,955 (-8,077)
プラごみ	日野市	8,251	578	8,829	8,724	941	9,665
	国分寺市	4,983	1,762	6,745	2,441	2,330	4,771
	小金井市	4,803	395	5,198	3,648	1,923	5,571
	計	18,037	2,735	20,772	14,813 (-3,224)	5,194 (+2,459)	20,007 (-765)
紙ごみ	日野市	10,616	8,141	18,757	9,757	5,279	15,036
	国分寺市	8,053	4,586	12,639	6,794	3,879	10,673
	小金井市	6,375	4,944	11,319	6,095	4,621	10,716
	計	25,044	17,671	42,715	22,646 (-2,398)	13,779 (-3,892)	36,425 (-6,290)
その他	日野市	5,859	2,667	8,526	7,974	2,512	10,486
	国分寺市	3,476	1,916	5,392	2,117	2,018	4,135
	小金井市	3,200	2,197	5,397	3,237	1,989	5,226
	計	12,535	6,780	19,315	13,328 (+793)	6,619 (-161)	19,947 (+632)
合計	日野市	34,909	11,386	46,295	31,691	8,732	40,423
	国分寺市	24,176	8,264	32,440	18,331	8,227	26,558
	小金井市	19,565	7,536	27,101	15,721	8,533	24,254
	計	78,650	27,186	105,836	65,743 (-12,907)	25,492 (-1,694)	91,235 (-14,601)

＜参考＞可燃ごみ・不燃ごみの組成データは精度に難があり、それを用いて算出したごみ種別排出量にはまれにブレが生じるので、過去10年間のごみ量の変化を、2時点間の比較（表3）だけではなく、時系列（表4）でも見てみると、変化に同様の傾向が認められます。

表4 3市の可燃ごみ・不燃ごみのごみ種別排出量の時系列推移

（単位：t/年）

		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
生ごみ	日野市	10,182	10,272	8,839	8,336	8,804	8,733	5,086	5,763	4,488	6,780	5,236
	国分寺市	7,663	6,345	4,599	4,846	5,244	4,110	3,141	6,419	7,344	7,037	6,978
	小金井市	5,187	4,946	5,599	4,838	4,262	3,981	4,402	4,140	4,193	2,728	2,741
	計	23,032	21,563	19,037	18,020	18,310	16,824	12,629	16,322	16,025	16,545	14,955
プラごみ	日野市	8,251	8,853	10,119	9,208	8,936	8,684	10,397	11,402	9,634	11,388	8,724
	国分寺市	4,983	5,042	3,507	3,504	3,562	3,372	3,895	1,866	1,437	1,570	2,441
	小金井市	4,803	4,040	3,447	3,269	4,024	3,882	3,573	3,355	3,333	3,651	3,648
	計	18,037	17,935	17,073	15,981	16,522	15,938	17,865	16,623	14,404	16,609	14,813
紙ごみ	日野市	10,616	8,683	8,295	8,549	7,584	7,523	10,626	9,551	10,132	8,408	9,757
	国分寺市	8,053	7,441	10,384	8,377	7,954	7,957	7,710	6,828	5,496	5,867	6,794
	小金井市	6,375	5,201	5,189	5,223	4,955	5,060	5,043	5,791	5,444	6,066	6,095
	計	25,044	21,325	23,868	22,149	20,493	20,540	23,379	22,170	21,072	20,341	22,646
その他	日野市	5,859	6,398	5,857	6,515	6,964	6,916	6,185	5,929	7,989	5,369	7,974
	国分寺市	3,476	4,395	4,257	5,601	5,467	3,963	3,771	2,945	3,659	3,495	2,117
	小金井市	3,200	4,350	3,582	3,663	3,310	3,435	3,267	3,182	3,314	3,229	3,237
	計	12,535	15,143	13,696	15,779	15,741	14,314	13,223	12,056	14,962	12,093	13,328
合計	日野市	34,909	34,206	33,110	32,608	32,288	31,856	32,294	32,645	32,243	31,944	31,691
	国分寺市	24,176	23,223	22,747	22,328	22,227	19,402	18,517	18,058	17,936	17,968	18,331
	小金井市	19,565	18,538	17,817	16,994	16,550	16,358	16,285	16,467	16,284	15,673	15,721
	計	78,650	75,967	73,674	71,930	71,065	67,616	67,096	67,170	66,463	65,585	65,743

3 3市の焼却ごみ削減目標

3.1 焼却ごみゼロを目指す

新可燃ごみ処理施設の寿命が来る30年後の2050年度までに、3市の焼却ごみをゼロに近づけることを目標とします。そのため、まず第1期目標として10年後の2030年度までに焼却ごみを半減させ、第2期目標としてその10年後の2040年度までにさらに半減させ、最後の10年間でゼロに近づけます。

ちなみに、日野市は「一般廃棄物処理基本計画」のタイトルを「ごみゼロプラン」、小金井市は同計画のサブタイトルを「ごみゼロタウン小金井を」としています。

3.2 改めて焼却ごみゼロを目指す理由

日野市にある焼却施設での焼却ごみ量は、共同処理の開始により倍増し、それに伴って、可燃ごみ運搬車両も1日平均約100台から約200台(片道)に倍増します。焼却施設周辺の住民の中には、排ガスや騒音の生活環境や健康への影響に不安を抱いている人が少なからずいます。地元住民のこうした不安を解消するため、焼却ごみをゼロに近づけていくことが必要です。

3.3 第1期焼却ごみ削減目標—2030年度までに半減

表5 第1期焼却ごみ削減目標

	焼却量 t	資源化量 t	計 t	焼却量削減のための個別目標
生ごみ	3,000 (-12,000)	8,000 (+8,000)	11,000 (-4,000)	・分別収集・資源化で-8,000 t ・自家処理で-1,000 t、発生抑制で-3,000 t
プラごみ	4,000 (-11,000)	14,000 (+9,000)	18,000 (-2,000)	・日野市のプラ全量資源化(2020年1月から実施)で-4,000 t ・分別の徹底で-5,000、発生抑制、店頭回収の利用で-2,000 t
紙ごみ	17,000 (-6,000)	17,000 (+3,000)	34,000 (-3,000)	・分別の徹底で-3,000 t、発生抑制で-2,000 t ・事業系持込ごみの削減で-1,000 t
その他	9,000 (-4,000)	10,000 (+3,000)	19,000 (-1,000)	・紙おむつの資源化で-3,000 t ・分別の徹底で-1,000 t
合計	33,000 (-33,000)	49,000 (+23,000)	82,000 (-10,000)	

*可燃ごみ・不燃ごみ排出量を全量焼却量とした。2018年度を基準年とする。()内は2018年度比(t)。

<参考>先進的な焼却・埋立ごみ削減計画の例

- ・東京都町田市：2011年4月計画策定、2009～2020年度(11年間)に40%削減
(新しい焼却施設、バイオガス化施設、不燃・粗大ごみ処理施設の稼働が2022年1月に延期)
- ・神奈川県鎌倉市：2019年5月発表、2017～2029年度(12年間)に1/3に削減
- ・神奈川県葉山町：2008年6月発表、目標は2028年度(20年後)ゼロ達成、2017年度リサイクル率44.1%
【ゼロ・ウェイスト宣言自治体】
- ・徳島県上勝町：2003年9月宣言、目標2020年(17年後)、2017年度リサイクル率79.7%
- ・福岡県大木町：2008年3月宣言、目標2016年度(8年後)、2017年度リサイクル率67.3%
- ・熊本県水俣市：2009年11月宣言、目標2026年度(17年後)、2017年度リサイクル率40.8%
- ・奈良県斑鳩町：2017年5月宣言、目標2027年度(10年後)

4 ごみ減量・資源化の取り組み

4.1 ごみ減量・資源化の目的

ごみ減量・資源化には、焼却ごみ削減という目の前の目的とともに、以下のような世界共通の目標に寄与するという目的があります。さらなるごみ減量・資源化を進めるためには、市民一人ひとりが目的意識を持つことが必要です。

①地球温暖化防止

焼却するごみを削減し、地球温暖化を進行させる二酸化炭素（CO₂）の発生を抑える。

②食品ロスの削減

もったいないにこだわり、食べられるのに捨てられている食品ロス（食品廃棄）を減らす。

③海のプラスチック汚染防止

海を汚染し、海の生き物の生存を脅かしているプラスチックごみの海への流出を防止するため、プラスチックごみそのものを減らすとともに、散乱ごみをなくす。

④資源の消費抑制

資源の消費そのものを抑えるとともに、資源の再利用（循環利用）により資源を効率的に利用する。

⑤ライフスタイルの転換

広く定着している使い捨てのライフスタイルを、ごみを出さないライフスタイルに変える。

4.2 新たな取り組みへの挑戦

4.2.1 生ごみ分別収集・資源化

焼却ごみをゼロに近づけるためには、生ごみの分別収集・資源化が不可欠です。これを推進するため、委員会を設置して、生ごみ資源化施設の導入について次のような方向で検討を進める同時に、多摩地域にある民間生ごみ資源化施設の活用も検討します。

(1) 生ごみ資源化施設の導入

<処理方式>

処理方式としては、乾式バイオガス化、湿式バイオガス化、HDMシステムの3つを候補とします。

堆肥化はできた堆肥の受け入れ先の確保が難しいこと、飼料化は異物が混入する家庭生ごみを原料として使用できないことから除外します。

①乾式バイオガス化

可燃ごみから生ごみ、紙ごみ、剪定枝を機械選別して、それらをメタン発酵させ、得られたバイオガスを燃料として発電を行います。固形分濃度 25~40%、高温（約 55℃）で処理。選別残渣と発酵残渣は焼却処理します。特徴は、紙ごみ、剪定枝もメタン化でき、ガス発生量が多いこと。近年は乾式がバイオガス化の主流。町田市も乾式を導入しており、2022年1月から稼働の予定。

②湿式バイオガス化

分別収集した生ごみを破碎・選別してメタン発酵させ、生成したバイオガスを燃料として発電を行います。固形分濃度 6~10%、中温（約 35℃）で処理。選別残渣は焼却処理、発酵残渣は固形燃料化が可能。特徴は、施設の必要面積が小さいことと、建設費・運転費が比較的安いこと。従来は湿式が一般的。

③HDMシステム

(株)熊谷清掃社(本社埼玉県熊谷市)が開発。木屑チップにHDM菌(好気性発酵菌の集合体)を混ぜて山積みした菌床に、生ごみを破碎して投入し、攪拌して寝かせると、生ごみは高速で発酵分解して気化し、24時間後には5%に減容。特徴は、堆肥の受け入れ先がない場合に最適であることと、施設の建設費・運転費の破格の安さ。ただし、臭気漏洩対策が課題。近郊では、同社工場(熊谷市)、久喜宮代衛生組合(埼玉県宮代町)、比留間運送(株)(武蔵村山市)等で導入。

<建設用地の確保>

建設用地の確保が最大の課題であり、用地の確保のためには、共同処理・集中処理にこだわらずに、単独処理・分散処理の観点からも候補地を探す必要があります。

(2) 民間生ごみ資源化施設の活用

①羽村バイオガス発電所(湿式バイオガス化)

所在地羽村市。経営主体はアーキアエナジー(株)(本社東京都港区)。処理能力80t/日。稼働予定時期は2020年7月。

②(株)イズミ環境八王子バイオマス・エコセンター(堆肥化)

所在地八王子市。処理能力80t/日。臭気漏洩問題で倒産し、稼働を停止中ですが、愛知産業(株)(本社北海道北見市)に経営主体が替わり、再稼働を目指しています。

4.2.2 紙おむつの資源化

紙おむつは、可燃ごみの7%程度を占めており、高齢化の進行により、今後ますます増加することが予想されます。紙おむつの資源化は、今や避けて通れない課題です。前記委員会にて導入について検討していく必要があります。現在実用化されている処理方式としては、次の2つがあります。

①燃料ペレット化

(株)スーパー・フェイス(本社鳥取県伯耆町^{ほうぎ})が開発。紙おむつ処理装置を開発。紙おむつを処理装置に投入して、破碎・発酵・乾燥・高温殺菌・脱臭の処理を自動的に行い、生成したフラフをペレット成形機で圧縮して、ペレット状の燃料に加工します。燃料ペレットはボイラーの燃料として利用。処理装置の処理能力は、小型機120kg/日(約100人分)、大型機600kg/日(約500人分)。導入実績は、自治体1、産廃処理業者2、介護施設2。

②水溶化処理

トータルケア・システム(株)(本社福岡市。ユニ・チャーム(株)も出資)が開発。紙おむつを破碎し、分離槽で水溶化処理してパルプとプラスチックを分離回収するシステム。パルプは建材として、プラスチックは固形燃料として利用。福岡県大牟田市の自社工場で、自治体(福岡県大木町、みやま市)、医療機関、介護施設から紙おむつを受け入れています。

4.3 従来の取り組みの強化

4.3.1 生ごみの減量・資源化

(1) リデュース

- ①食材を買いすぎない
- ②料理を作りすぎない
- ③「3きり」を実行する
 - ・使いきり：野菜や果物の皮、芯、茎はまるごと食べるようにし、調理くずをなるべく出さない
(エコ・クッキング)
手つかずの食品を捨てることをしない
(賞味期限が過ぎてもすぐ捨てないで、食べられるかどうかを五感で確認する)
 - ・食べきり：食べ残しをしない
 - ・水きり：生ごみをひとしぼりする
- ④飲食店では食べきる(30・10運動)、食べ残した料理は持ち帰る
- ⑤食べきり協力店を募集・登録

(2) 賞味期限前の余っている食品の有効活用

フードドライブ、フードバンクへ寄付する

(3) 生ごみ自家処理

- ①生ごみを庭や畑に埋める
- ②生ごみを生ごみ処理機器で堆肥にする

4.3.2 プラスチックごみの減量・資源化

(1) リデュース

- ①マイバッグを持参し、レジ袋は断る
- ②無包装・簡易包装を選ぶ
- ③マイボトルを持ち歩き、ペットボトル入り飲料はなるべく買わない
会議などではペットボトル入り飲料は使わない
- ④使い捨てプラスチック製品(食器、ナイフ、フォーク、スプーン、ストロー等)は使わない
- ⑤店頭回収の利用促進

(2) リユース

- ①詰め替え容器入りを選ぶ
- ②イベントではリユース食器やマイ食器を使う

(3) リサイクル

- ①プラスチックの分別排出の徹底(汚れたものは極力水で洗って資源物へ)
- ②製品プラの一括分別収集

(4) 散乱ごみの削減

- ①ポイ捨てや不法投棄をなくす
- ②適正排出の徹底（ごみ出しでは、風で飛ばされたり、動物に袋を破られたりしないようにする）
- ③まちなか・河原のごみ拾い（一斉清掃）—まちの美化から海ごみ削減へ

4.3.3 紙ごみ・その他のごみの減量・資源化

(1) リデュース

- ①修理して長く使い続ける
- ②販売店回収・集団回収の利用促進
- ③事業系持込ごみの削減

(2) リユース

- ①リユースショップの利用促進（衣類、書籍、家具、自転車等）
- ②フリーマーケットの開催・支援

(3) リサイクル

- ①分別排出の徹底（特に紙類、剪定枝、小型家電、金属類）
- ②リサイクル品目の拡大（陶磁器、ガラス等）

令和元年 10 月 29 日

3 市ごみ減量推進市民会議・情報グループ中間報告

1. 情報グループ会議の開催状況

(1) 第 1 回 (5 月 28 日)

- ① 情報グループの役割と今年度のスケジュールの確認
- ② 3 市及び組合の情報発信・環境学習等の現状把握
- ③ 検討項目の洗い出し

(2) 第 2 回 (6 月 28 日)

- ① 新可燃ごみ処理施設建設の経緯の確認
- ② 3 市及び組合の情報発信の課題の検討
- ③ 今年度の情報発信の方法と内容について協議

(3) 第 3 回 (7 月 16 日)

- ① 10 月の全体会に提案する特集記事の内容の決定
- ② 10 月の全体会議に提出する資料等の確認
- ③ 稼働後の新施設見学・研修等について意見交換

2. 3 市共同可燃ごみ処理施設の本格稼働に向けた 3 市連携の「特集記事」の掲載について

別紙の通り提案します。

以上

【添付資料】

- ・新可燃ごみ処理施設に関する情報発信の状況
- ・3 市の環境学習の状況と新施設の見学・研修計画

【情報グループメンバー】

- ・日野市 伊地知委員、伊藤委員、小野寺委員、佐藤（美）委員（サブリーダー）
- ・国分寺市 石垣委員、八ッ藤委員（リーダー）
- ・小金井市 石田委員（サブリーダー）、波多野委員
- ・行政委員 随時出席

3市共同可燃ごみ処理施設の本格稼働に向けた
3市連携の「特集記事」の掲載について（提案）

3市市民会議・情報グループ

1. 「特集記事」掲載の提案理由

3市共同可燃ごみ処理施設は来年4月本格稼働の予定であるが、直近数年間の各市及び浅川清流環境組合の本件に関する情報発信の状況は別紙の通りである。各市によって情報量・情報内容に相当バラツキがあり、市民の理解度・関心度も地域によって温度差があると思われる。

また、各情報も進捗状況に応じて発信されており、全体像（施設の内容、運営体制等）が把握しにくい状況になっている。

このプロジェクトを成功させるためには、市民の十分な理解と更なるごみ減量の取り組みが不可欠であり、市民会議として、稼働前に3市が連携した「特集記事」を市報等全世帯配布の媒体に掲載し、3市市民に周知することを提案したい。

2. 「特集記事」掲載の提案内容

(1) 目的

- ① 3市が連携した「特集記事」を掲載することにより、新施設建設の目的・施設概要・運営体制・施設周辺住民への感謝等について3市市民の認識を共有化する。
- ② 本格稼働を契機に、3市共通の目的として更なるごみ減量を推進する機運を盛り上げる。

(2) 方法

- ① 各市のごみ情報紙（市により名称異なる*）の1ページ（A3の場合）に可燃ごみ処理施設の特集記事を載せる。市報にも可燃ごみ処理施設稼働のリード記事を載せて関心を引き、詳細をごみ情報紙に載せれば更に良い。

*日野市：エコー 国分寺市：ごみ減量リサイクルだより

小金井市：ごみ減量・リサイクル特集

- ② 各市のHP（トップページ）にも要約版を載せ、ごみ分別アプリでも新施設の稼働情報を発信する等幅広く広報し、市民への周知徹底を図る。

(3) 時期

令和2年3月15日

各市の市報折込みの「ごみ情報紙」の発行日。但し、日野市は5月15日発行なので、発行日を早めるか増刊号を発行する必要がある。

(注) 原稿の締切が発行日の1ヶ月前なので、1月末までには全て固める必要がある。(2月予定の全体会では間に合わない。)

(4) 内容

紙面構成は各市独自で行うが、掲載内容はほぼ3市共通とし統一感のあるものとする。(②~④、⑦は各市共通とする)

- ① 広域化の目的
- ② 施設の概要と運営体制 (図解して分かりやすく)
- ③ 環境対策、交通量増加対策 等
- ④ 見学・研修等の受入れ体制
- ⑤ 稼働後の可燃ごみの分別ルールと減量の推進
- ⑥ 市長メッセージ (広域化の意義、周辺住民への感謝、更なるごみ減量 等)
3市の連携をアピールするため、各紙に3市長のメッセージを同時掲載することを提案する。
- ⑦ 市民会議のメッセージ (周辺住民への感謝、3市市民の責任=更なるごみ減量、市民会議の役割 等)

3. 市民会議メッセージの作成について

情報グループが案を作成し、メールにて全委員の意見を聞いたうえで来年1月末をメドに成案を得る。

以上

新可燃ごみ処理施設に関する情報発信の状況

3市市民会議・情報グループ

(注) 市報、ごみ情報誌は平成29年4月以降掲載分を記載

	広報媒体名	対象	発行日	掲載内容(注)
日 野 市	・広報 「ひの」 (カラー/A4・24P)	全世帯	毎月 (1日・15日)	・可燃ごみ処理の広域化に関する情報は市報折込みの「エコー」にて発信
	・ごみ情報誌 「エコー」 (市報折込/加-/A4・8P)	全世帯	年2回(5・ 10月の15日)	・29年5月(7面:専用路整備工事開始)・29年10月(2面:組合からのお知らせ) ・30年5月(1面:市民会議設置協定締結)・30年10月(7面:市民会議開催) ・元年5月(8面:工事の進捗状況⇒組合ニュース)
	・HP ごみリサイクル ⇒「ごみ処理の広域化」	閲覧者	随時	・25年4月以降、きめ細かく情報発信 説明会質疑概要、基本設計、覚書締結、浅川清流環境組合設立、市民会議の開催 他 ○他に関連情報として市民会議の開催状況、配布資料、会議録を掲載
	・「クリーンセンターだより」	周辺住民	随時	・クリーンセンター周辺住民・自治会向けに情報提供(25年3月~31年4月17回発行)
国 分 寺 市	・市報 「国分寺」 (カラーと2色併用/A3・10P)	全世帯	毎月 (1日・15日)	・30年5月(2面・市民会議の協定締結) ・可燃ごみ処理の広域化情報は市報折込みの「ごみ減量リサイクルだより」で発信
	・「ごみ減量リサイクルだより」 (市報折込/2色/A3・4P)	全世帯	年2回(10 ・3月の15日)	・29年10月(4面)ごみ・資源物処理の今後)・30年3月(3面・「覚書」の要旨) ・30年10月(3面・建設工事が進められています)
	・HP ごみ・リサイクル ⇒「浅川清流環境組合」	閲覧者	随時	・27年2月(覚書締結・覚書の抜粋)・31年4月更新(浅川清流環境組合の設立・新施設の概要)・31年4月更新(可燃ごみの共同処理の今後について)・元年5月更新(3市共同処理の状況と清掃センターの今後) ○他に関連情報として市民会議の次第、会議録を掲載
小 金 井 市	・市報 「こがねい」 (カラーと2色併用/A3・12P)	全世帯	毎月 (1日・15日)	・30年5月(1面・市民会議の協定締結) ・可燃ごみ処理の広域化情報は主に市報折込みの「ごみ減量・リサイクル特集」で発信
	・「ごみ減量・リサイクル特集」 (市報折込/カラー/A3・4P)	全世帯	年4回(7・9 ・12・3月の 15日)	・29年7月(1面・新施設の工事・運営スケジュール)・29年12月(3面・工事着工) ・30年3月(4面:覚書の締結・覚書の要旨)・30年7月(1面・新施設の建設工事について)・30年12月(3面・建設工事の進捗状況)
	・HP ごみ・リサイクル ⇒「新可燃物処理施設の整備 及び運営について」	閲覧者	随時	・可燃ごみの共同処理について・浅川清流環境組合設立・ごみ処理施設建設基本設計書 ・新可燃ごみ処理施設整備方針について ・3市新可燃ごみ処理施設の整備及び運営に 関する覚書の締結 ○他に関連情報として市民会議委員名簿、会議録を掲載

浅川清流環境組合	<ul style="list-style-type: none"> ・「浅川清流環境組合ニュース」 (カラー/A4・4P) 	3市全世帯	年2回(10~12月・3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・1号(27年11月) 管理者挨拶、整備事業概要・スケジュール、議会 ・2号(28年3月) 建設予定地、環境影響評価について、議会、予算 ・3号(28年12月) 設計・建設・運営の事業者決定と経過、環境評価書作成、議会 ・4号(29年3月) 当面の予定、環境評価手続きの実施状況、議会、予算 ・5号(29年11月) 建築工事情報と新施設の概要、議会 ・6号(30年3月) 建築工事開始と工事の流れ、環境影響評価事後調査と定点調査 他 ・7号(30年10月) 建築工事の進捗状況、環境影響評価事後調査と定点調査、議会 ・8号(31年3月) プラント工事開始、ごみ処理の流れとプラント設備の紹介、議会
	<ul style="list-style-type: none"> ・HP 	閲覧者	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事など事業に関すること、組合議会に関すること、組合の運営に関することなどの情報を発信している。3市のHPともリンクしている。 ・地域住民の安全・安心の確保及び施設の円滑な運営を図るために設置した「クリーンセンター連絡協議会」の情報も提供している。 ・施設の本格稼働後は、運転に関する情報や公害防止に関する情報などを発信する予定。

網掛け：市民に周知・徹底するための最重要媒体。

3市の環境学習の状況と新施設の見学・研修計画

3市市民会議・情報グループ

	研修・学習会の名称	主催	対象	開催頻度	時間	内容	
日野市	・小学校社会見学	クリーンセンター	4年生	各校年1回	座学0.5時間 見学1.5時間	・ごみ収集から最終処分までの流れをDVDで紹介。 ・施設見学をし、最後にもう一度座学で後日訪問する出前授業につなげている。	
	・小学校の出前授業	クリーンセンター	4年生	各校年1回	1クラス1時間	・見学した学校に出向き、見学で学んだことを踏まえて減量に向けた話をする。	
	・夏休み親子見学会	クリーンセンター	小中学生	夏休み3回	座学1時間 見学1時間	・小学校の社会科見学、出前授業を組み合わせた内容で実施。	
	・推進員向け見学会	クリーンセンター	ごみゼロ推進員	年1回(3日間)	座学1時間 見学1時間	・ごみ処理施設の概要等を説明し、実際の処理状況を見学。	
	上記見学会は、建て替え工事による安全確保が難しいため、平成30年度から休止中。						
	・出前講座	クリーンセンター	幼稚園・保育園	各園年1回	1.5時間	・紙芝居や着ぐるみ(ごみゼロマン)による寸劇等で子どもたちに食べ残しゼロなどを中心に環境学習を実施。	
	・ダンボールコンポスト講習会	クリーンセンター	市民	年4~5回	1.5時間	・ダンボールコンポストの使い方などを説明。	
	・エコクッキング開催	ひの・まちの生ごみを考える会	市民・親子	年2回	3時間	・ごみを出さず、ミネラル豊富な皮や芯も調理する料理教室。 ・段ボールコンポスト紹介と実演。	
	・講演会開催	ひの・まちの生ごみを考える会	市民	年1回	3時間	・生ごみ減量をテーマとし、毎年多彩な講師を迎えた講演会。(生ごみで野菜作り講習会やフードロス等講演会など)	
	・生ごみ回収堆肥化事業(せせらぎ農園運営)	まちの生ごみ活かし隊	市民・保育園・幼稚園・児童館・小学校・自治会・大学等	毎週火・木曜日	9時~16時	・約200世帯の生ごみを収集してコミュニティガーデンせせらぎ農園でたい肥化し、野菜や花を育てて年間約30トン以上の生ごみ減量を実施。農体験や食育や環境教育など、年間延べ5000人が訪れる情報発信の場となっている。	
<ul style="list-style-type: none"> ・新施設の見学については、今後浅川清流環境組合と実施方法等の協議を行う予定。 ・プラ資源化施設の見学等については、今後協議を行い決定していく予定。 							
国分寺市	・国分寺環境まつり	清掃センター	市民	年1回(12月)	10時~14時	・フリーマーケット・企業展示・ステージショー・もったいない食器市・分別クイズ・工場見学・フードバンク 他	
	・3R講座	市・推進委員会	市民(リーダー養成)	年6回シリーズ	座学1日3時間 見学3回	・ごみ処理の現状説明 ・3Rの説明・施設見学(4カ所) ・分別ルール説明と分別体験・修了証書授与(4回以上)	

国分寺市	・清掃センター見学	市内小学校 清掃センター	4年生	学校別 年1回	午前中	・焼却施設見学 ・清掃センター紹介VTR ・資料「ようこそ清掃センターへ」の説明
	・夏休み親子見学会	清掃センター	小学生・保護者	夏休み1回	午前・午後	・ごみ処理工程の見学 ・リサイクルの説明
	・小学校の出前授業	市・推進委員会	1校（4年生）	年1回	1ク入1時間	・総合学習の一環 ・3Rとごみ減量 ・リサイクルの説明
		ハイキー（ボランティア団体）	9校（4年生）	各校年1回	1ク入2時間	・総合学習の一環 ・ごみの増加と環境への影響 ・3Rの説明 ・分別ルールの説明と分別体験
小金井市	・くるかめ出張講座	小金井市	市民・在勤・在学	随時	1時間程度	・市のごみの現状・ごみ処理の行方・分別・3Rについて等
	・廃棄物処理施設見学会	小金井市	市民・在勤・在学	年2回	1時間半程度	・30年度：武蔵野クリーンセンター、多摩川衛生組合見学
	・市内ごみ処理施設の見学	小金井市	市民・在勤・在学	随時	1時間程度	・中間処理場、空缶・古紙等処理場など
	・なかよし市民まつり	小金井市	市民・在勤・在学	10月（2日間）	全日	・ごみ対策課ブースでのごみ減量等啓発イベント実施
	・生ごみリサイクル教室	小金井市	市民・在勤・在学	年4回	2時間程度	・良質な堆肥へ手軽にできるリサイクルの方法を紹介
	・循環型社会体験教室	小金井市	市民・在勤・在学	年5回	1時間程度	・堆肥を使った土づくりから収穫体験、エコクッキングまで資源循環を体験
	・こがねい環境フォーラム	小金井市	市民・在勤・在学	年1回（2日間）	全日	・ものづくりや講座、展示などを通じて環境について学ぶイベント
	・ごみゼロ化推進会議講演会	ごみゼロ化推進会議	市民・在勤・在学	年1回	2時間程度	・30年度：海ごみに関すること 29年度：食品ロスについて
組合	・見学・研修施設の概要	<p>・施設見学について 従来3市で行っている小学生の施設見学が実施できるように想定している。6階に120名規模の大会議室を設置。大会議室で説明ビデオを見た後に見学者ルートを回り、プラットフォーム、ごみピット、中央制御室、発電機室、展示スペースなどを見学し、環境学習をする流れです。</p> <p>・詳細については、建設工事を請け負っているJVからの提案を受け、調整をしている。</p>				
	・見学・研修計画					